

診療所実習を通して

あかりこどもクリニック 1年 MH

1. 学んだこと

一日の実習の中で印象的だったのは、スタッフの生活が充実していることが前提であるということである。「あかりこどもクリニックの心」の1つに「心に寄り添ったケアのために家庭でのそれぞれの生活も大切であることを認識しスタッフ間で思いやりを持つ」とある。医療従事者は多忙を極めることが多く、患者を優先して自分の家庭が後回しになることがよくある。あかりこどもクリニックでは、患者に寄り添う心の原点は自分の生活の充実であるという考え方をしていた。そのため、家庭の事情で遅刻や欠勤がしやすい雰囲気があった。働きやすい環境ができており、素敵だと感じた。そのおかげか、スタッフ間でのコミュニケーションが多く連携が取れていた。以前にも増して医療従事者にコミュニケーション能力が求められるようになった今、あかりこどもクリニックは理想的な働き方ができているように感じた。

また、子どもたちがリラックスできるような工夫もあった。院内の内装はクリニックのマスクットキャラクターが描いてあったり森のようなデザインになっていたりなど、工夫があった。実際に来院した幼児がイラストを見ながら目を輝かせており、細かいところの配慮まできちんと伝わっているのだと気づいた。

2. 地域医療における診療所の役割

地域医療における診療所の役割とは、第一に患者の治療をすることだが、第二に保護者の方々の心の支えとなる場所である。実習中、北原先生に、保護者の方々は来院するまでに何度も謝罪をしていると教えていただいた。職場に出勤ができないことを謝罪し、お子さんの通う幼稚園や学校に欠席の連絡を入れるなど、負担が大きい。あかりこどもクリニックはそれをよく理解し、保護者の方々がせめて病院だけでは気を遣うことなく、笑顔で家に帰れるよう、表情や態度などの面を心掛けていた。小さな心掛けの積み重ねが保護者の方々にとっては大きな救いになっているのだという気づきがあった。

3. 謝辞

この度は、お忙しい中実習をさせていただきありがとうございました。弟の障がいのため、小さな頃から小児病院へ足を運んだことがありましたが、今回初めてその舞台裏を見ることができ、大変貴重な経験となりました。現時点では医学知識が何もありませんが、医療従事者としての視点と一般的な視点からたくさんの気づきを得ることができ、嬉しく思います。北原先生をはじめ、スタッフの皆さまのような、患者さんに寄り添うことのできる医師を目指して努力していきます。また機会がありましたら、どうぞよろしくお願いたします。